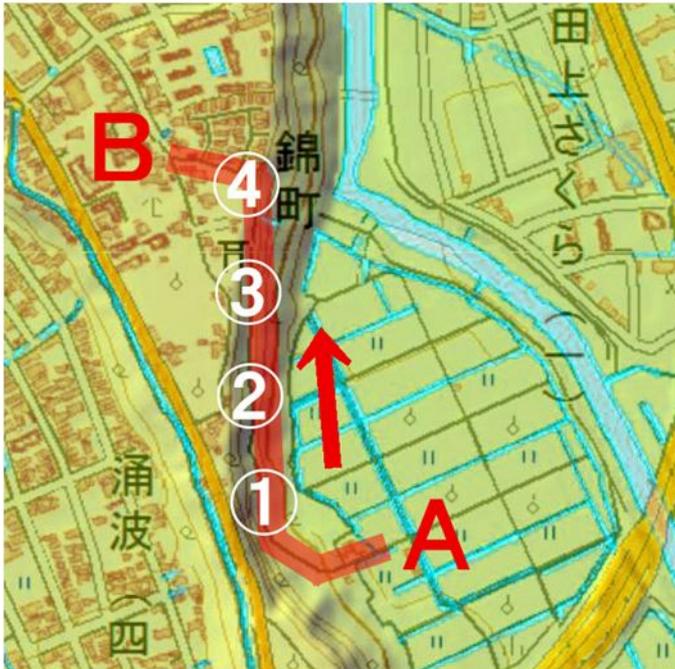


「金沢の地形(最終回) 浅野川の段丘崖を上る②」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

浅野川沖積地と小立野段丘の境の段丘崖(たぶん「ナントカ崖線」という名称があるだろう)を、さっそく上ってみよう。標高差は43mもあるので、準備運動でもすれば、ハイキング気分になれるそうだ。



道は狭い。ストリート・ビューの撮影車が、やっと通れる幅員だ。やはり段丘崖の斜面を削って、法面を造っている。ここを歩けば、道の左側に地層の露頭が見られる可能性が高いだろう。



写真は、①の地点である。左側は土地が削られているが、残念ながら、石垣で固められている。②の地点では、岩石の露頭を見つけた。幸い「ストリート・ビュー」は、上下左右前後、どこでも見ることができる。解像度は悪いが、土や砂礫ではなく、岩石に間違いはない。この地点は、段丘崖の下部なので、恐らく卯辰山

層の砂岩か泥岩(古い地層)だろう。この岩石のサンプルが欲しいが、さすがにこの方法では無理である。金沢在住の方に頼んでみよう。火星探査車のような車があれば、遠隔で岩石分析ができるのだが・・・



③の段丘崖の終点付近。岩石層は消え、見えているのは、小立野段丘面の砂礫層と土壌だろう。



④の地点。標高差43mも登ったので、非常に景色が良い。浅野川沖積地が一望できる。面白かった!